

平成30年2月20日

消費生活用製品の重大製品事故に係る公表について

消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告のあった重大製品事故について、以下のとおり公表します。

○特記事項あり

石油ストーブ（開放式）、電気温風機（セラミックファンヒーター）に関する事故（リコール対象製品）について

（詳細は次頁以降参照。）

- | | |
|--|----|
| 1. ガス機器・石油機器に関する事故
（うち石油給湯機1件、石油ストーブ（開放式）1件） | 2件 |
| 2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故
（うちコーヒーメーカー1件、
電気温風機（セラミックファンヒーター）1件、
蓄熱式電気暖房器1件） | 3件 |
| 3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因か否かが特定できていない事故
（うち換気扇1件、延長コード1件、電気洗濯機1件、
発電機（携帯型）1件、電気ケトル1件） | 5件 |
| 4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故調査判定合同会議（※）において、審議を予定している案件
該当案件なし | |

1. ～ 4. の詳細は別紙のとおりです。

※正式名称は「消費者安全調査委員会製品事故情報専門調査会及び消費経済審議会製品安全部会製品事故判定第三者委員会合同会議」という。

5. 留意事項

これらは消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づく報告内容の概要であり、現時点において、調査等により事実関係が確認されたものではなく、事故原因等に関し、消費者庁として評価を行ったものではありません。

本公表内容については、速報段階のものであり、今後の追加情報、事故調査の進展等により、変更又は削除される可能性があります。

6. 特記事項

(1) 株式会社コロナが製造した石油ストーブ（開放式）について（管理番号：A201700747）

① 事故事象について

株式会社コロナ（法人番号：5110001014116）が製造した石油ストーブ（開放式）の給油タンクに給油後、当該製品に戻す際に灯油がこぼれ、建物4棟を全焼、4棟を部分焼する火災が発生しました。当該事故の原因は、現在、調査中です。

② 当該製品のリコール（無償点検）について

同社は、当該製品を含む2000年（平成12年）以前に製造された石油ストーブ（開放式）及び石油温風暖房機（石油ファンヒーター）（下記③）に付属する給油タンク（よごれま栓タンク）について、長期間の使用による給油口の変形などの要因により、給油口がロックされたと使用者が誤認する「半ロック状態」になる事象が発生する可能性があることから、事故の再発防止を図るため、2008年（平成20年）9月17日にプレスリリース及びウェブサイトへ情報を掲載し、翌18日に新聞社告を行うとともに、販売店の店頭及び消費者へのアフターサービス訪問時におけるチラシ配布、テレビCM等により、石油ストーブ等に付属する給油タンク（よごれま栓タンク）使用時の注意喚起を行い、無償点検を実施しています。

なお、今般報告のあった当該事故（管理番号：A201700747）が上記のリコール事象によるものかどうかは現時点では不明です。

③ 対象製品：製品名、型式、製造台数、製造期間

- ・ 製品名：石油ストーブ等に付属の給油タンク（よごれま栓タンク）
- ・ 型式：2000年（平成12年）以前に製造された石油ストーブ等で、下表に示す型式に該当するもの
- ・ 製造台数：石油ストーブ 2,090,000台
石油ファンヒーター 4,270,000台
計 6,360,000台

1) 石油ストーブ（開放式）

製造期間	型 式			
1987	SX-1800DX	SX-2200DX		
1988	SX-1800	SX-2200	SX-1800DXA	SX-2200DXA
1989	SX-1810	SX-2210	SX-3000	
1990	SX-1820	SX-2220	SX-3020	
1991	SX-1840	SX-2240	SX-3040	
1992	SX-1850	SX-2250	SX-2250X	SX-3050
1993	SX-1860	SX-2260	SX-3060	
1994	SX-1870	SX-2270	SX-3060	
1995	SX-1880Y	SX-2280Y	SX-3080Y	
1996	SX-1800Y	SX-2200Y	SX-3080Y	NX-22Y
	RX-D18Y			
1997	SX-B21Y	SX-B26Y	SX-B35Y	SX-B27WY
	NX-26Y	RX-B21Y	RX-B26Y	
1998	SX-C210Y	SX-C260Y	NX-26Y	
1999	SX-D27WY			
2000	SX-E210Y	SX-E260Y	SX-E21Y	SX-E26Y
	SX-B35YA	SX-D27WYA	NX-26YA	KM-D27WY

2) 石油ファンヒーター

製造期間	型 式			
1993	FH-3360AYL			
1994	FH-2570Y	FH-3270Y	FH-3370AYL	GT-2570Y
	GT-3270Y	FK-F250	FK-F320	KH-A25Y
	KH-A32Y	KH-3207Y		
1995	FH-2580Y	FH-3280Y	FH-5580Y	FH-2580AY
	FH-3380AY	NH-2580Y	NH-3280Y	GT-2580Y
	GT-3280Y	KH-B25Y	KH-B32Y	FK-G250
	FK-G320	AH-3280Y		
1996	FH-A30Y	FH-A37Y	FH-A47Y	FH-A60Y
	FH-A30AY	FH-A37AY	NH-A30Y	NH-A37Y
	GT-A30Y	GT-A37Y	GT-A30YJ	KH-A30WS
	KH-A37WS	KH-C30Y	KH-C37Y	FK-H30
	FK-H37			
1997	FH-B30AY	FH-B37AY	FH-B30BY	FH-B40BY
	FH-B50BY	FH-B62Y	NH-B30BY	NH-B40BY
	GT-B30BY	GT-B40BY	KH-B30WS	KH-B40WS
	KH-D30BY	KH-D40BY	FK-J30	FK-J40
1998	FH-C320BY	FH-C430BY	FH-C530BY	GT-C30Y
	GT-C32BY	GT-C53BY	FK-K32	FK-K53
	KCF-A300			
1999	FH-D320BY	FH-D430BY	FH-D530BY	FH-MD30Y
	GT-D30Y	GT-D32BY	GT-D43BY	GT-D53BY
	GT-EG30Y	GT-KS30Y	FK-L30	FK-L32
	FK-L43	FK-L53		
2000	FH-E62Y	FH-EX32BY	FH-EX43BY	FH-EX53BY
	FH-ES32BY	GT-E30Y	KM-30Y	KS-E30Y
	FK-M30	FK-M32	FK-M43	FK-M53
	FJ-V30Y			

2008年（平成20年）9月17日からリコール（無償点検）を実施
改修率：2.2%（2018年1月31日時点）

<リコール対象製品での事故件数>

当該事故（管理番号：A201700747）発生以前の、当該製品におけるリコール対象の内容による2010年度以降の事故（原因調査中でリコール同事象と考えられるもの及びリコール事象かどうか不明なものを含む。）の件数は、次のとおりです。これらは、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告を受けたものです。

年度	事故件数	被害状況	年度	事故件数	被害状況
2017年度	1	火災	2013年度	1	火災
	1	火災・軽傷			
2016年度	1	火災	2012年度	1	火災
2015年度	1	火災	2011年度	0	—
2014年度	2	火災	2010年度	1	火災・軽傷
				1	

<対象製品の外観及び確認方法>

1) 対象製品の外観



(写真はS X - B 2 7 W Y)



(当該製品の給油タンク)

2) 対象製品の確認方法

	【製造年の表示位置】 △△年製	【対象製品の製造年】 2000年製 00年製 ↓ 1996年製 96年製※ 及び	(1987年製から1995年製の製品には製造年表示がありません) ↑ 製造年表示のないもの
	※ファンヒーターについては94年製以降製造年表示があります。		

④使用者への注意喚起

対象製品をお持ちで、まだ事業者の行う無償点検を受けていない方は、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください。

また、事業者による点検を受けられるまでの間は、下図に従い給油口蓋が確実にロックされていることを御確認ください。

当該製品に限らず、石油ストーブ等に給油する際には、石油ストーブ等を必ず消火した上で、給油タンクの蓋を確実に締め、蓋が締まっていることを確認してから石油ストーブ等に戻すよう、正しい給油方法に従って安全に給油を行ってください。

<p>警告 給油時消火</p> <p>●給油は、必ず消火し、火が消えたことを確かめてからおこなってください。火災のおそれがあります。</p>	<p>危険 ガソリン厳禁</p> <p>必ず灯油をご使用ください</p> <p>●ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。</p>	
<p>警告 油もれ危険</p>		
<p>●給油後、油タンクの給油口を確実にロックし、開かないことを確認してください。</p>	<p>●給油後は、給油口を下にして油もれないことを確認してからストーブにセットしてください。</p>	
<p>①確実にロック</p> <p>「パチン」と音が強く押すするまで強く押す</p>	<p>②ロックの確認</p> <p>持ち上げて確認</p> <p>給油口をしめたあと、先端を指で持ち上げ、開かないことを確認してください。</p>	<p>③油もれの確認</p>

【問合せ先】

株式会社コロナ お客様相談窓口

電話番号：0120-623-238

受付時間：9時～17時（土・日・祝日・同社休業日を除く。）

ウェブサイト：<http://www.corona.co.jp/report/oshirase.html>

(2) 株式会社千石が輸入し、小泉成器株式会社が販売した電気温風機（セラミックファンヒーター）について（管理番号：A201700742）

① 事故事象について

株式会社千石（法人番号：5140001076302）が輸入し、小泉成器株式会社が販売した電気温風機（セラミックファンヒーター）を使用中、当該製品を焼損する火災が発生しました。

当該事故の原因は、現在、調査中ですが、製造上の不具合により、ヒーター接続部が異常発熱し、出火に至ったものと考えられます。

② 再発防止策について

販売事業者である小泉成器株式会社は、当該製品を含む対象製品（下記③）について、事故の再発防止を図るため、2016年（平成28年）1月20日にウェブサイトへの情報掲載及び新聞社告を行うとともに、店頭告知や販売店からダイレクトメールを送付し、対象製品について無償製品交換を実施しています。

③ 対象製品：製品名、型式、JANコード、販売期間、対象台数

製品名	型式	JANコード	販売期間	対象台数
電気温風機（セラミックファンヒーター）	KCH-1233	4981747042309	2013年9月 ～ 2014年3月	23,512

2016年（平成28年）1月20日からリコール（無償製品交換）を実施
回収率：54.1%（2018年1月31日時点）

<リコール対象製品での事故件数>

当該事故（管理番号：A201700742）発生以前の、対象製品におけるリコール対象の内容による2010年度以降の事故（リコール開始の契機となった事故を含む。）の件数は、次のとおりです。これらは、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき重大製品事故の報告を受けたものです。

年度	事故件数	被害状況	年度	事故件数	被害状況
2017年度	0	—	2013年度	1	火災
2016年度	1	火災	2012年度	—	—
2015年度	1	火災	2011年度	—	—
2014年度	1	火災	2010年度	—	—

<対象製品の外観及び確認方法>



●KOIZUMI KCH-1233

対象機種の品番は、
正面から右下の後ろ側に記載しています。



④使用者への注意喚起

対象製品をお持ちで、まだ事業者の行う無償製品交換を受けていない方は、直ちに使用を中止し、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください。

【問合せ先】

小泉成器株式会社

セラミックヒーター専用窓口

電話番号：0120-300-731（フリーダイヤル 無料）

※携帯電話・PHSからも利用できます。

受付時間：9時～17時（土・日・祝日・夏季休業日・年末年始を除く。）

ウェブサイト：<http://www.koizumiseiki.co.jp/support/important/-kch-1233.html>

【本発表資料の問合せ先】

消費者庁消費者安全課（製品事故情報担当）

担当：柳川、平野、清重

電話：03-3507-9204（直通）

FAX：03-3507-9290

経済産業省産業保安グループ製品安全課製品事故対策室

担当：橋爪、高橋

電話：03-3501-1707（直通）

FAX：03-3501-2805

1. ガス機器・石油機器に関する事故(製品起因か否かが特定できていない事故を含む。)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201700740	平成30年2月4日	平成30年2月15日	石油給湯機	IB-31SR	株式会社長府製作所	火災	当該製品を使用中、爆発を伴う火災が発生し、当該製品が破損した。現在、原因を調査中。	長崎県	製造から30年以上経過した製品
A201700747	平成29年12月28日	平成30年2月16日	石油ストーブ(開放式)	SX-B27WY	株式会社コロナ	火災	当該製品の給油タンクに給油後、当該製品に戻す際に灯油がこぼれ、建物4棟を全焼、4棟を部分焼する火災が発生した。現在、原因を調査中。	愛媛県	平成30年2月16日に消費者安全法の重大事故等として公表済 事業者が重大製品事故として認識したのは平成30年2月13日 平成20年9月17日からリコールを実施(特記事項を参照) 改修率:2.2%

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201700739	平成30年2月3日	平成30年2月15日	コーヒーメーカー	BCO410J-B	デロンギ・ジャパン株式会社 (輸入事業者)	火災	当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	埼玉県	平成30年2月16日に消費者安全法の重大事故等として公表済
A201700742	平成30年2月12日	平成30年2月15日	電気温風機(セラミックファンヒーター)	KCH-1233(小泉成器株式会社ブランド)	株式会社千石(小泉成器株式会社ブランド) (輸入事業者)	火災	当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。 事故の原因は、現在、原因を調査中であるが、製造上の不具合により、ヒーター接続部が異常発熱し、出火に至ったものと考えられる。	千葉県	平成28年1月20日からリコールを実施(特記事項を参照) 回収率:54.1%
A201700744	平成30年2月6日	平成30年2月16日	蓄熱式電気暖房器	ETS-200TEJ	日本スティーベル株式会社 (輸入事業者)	火災	火災警報器が鳴動したため確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。現在、原因を調査中。	青森県	

3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因か否かが特定できていない事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201700738	平成30年1月19日	平成30年2月15日	換気扇	火災 軽傷1名	建物1棟を全焼、4棟を類焼する火災が発生し、1名が軽傷を負った。現場に当該製品があった。当該製品から出火したのか、他の要因かも含め、現在、原因を調査中。	三重県	事業者が重大製品事故として認識したのは平成30年2月5日
A201700741	平成30年1月28日	平成30年2月15日	延長コード	火災	当該製品に複数の電気製品を接続していたところ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。当該製品から出火したのか、他の要因かも含め、現在、原因を調査中。	島根県	
A201700743	平成30年1月24日	平成30年2月16日	電気洗濯機	火災	当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。当該製品に起因するのか、他の要因かも含め、現在、原因を調査中。	大阪府	
A201700745	平成30年2月	平成30年2月16日	発電機(携帯型)	CO中毒 軽症1名	工事現場で当該製品を使用中、一酸化炭素中毒で1名が軽症を負った。当該製品の使用状況を含め、現在、原因を調査中。	福岡県	
A201700746	平成29年11月8日	平成30年2月16日	電気ケトル	重傷1名	当該製品のお湯を捨てた際に、お湯がこぼれ、右手に火傷を負った。当該製品の使用状況を含め、現在、原因を調査中。	北海道	事業者が重大製品事故として認識したのは平成30年2月6日

4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故調査判定合同会議において審議を予定している案件

該当案件なし

コーヒーメーカー（管理番号：A201700739）



蓄熱式電気暖房器（管理番号：A201700744）

